

第269回原医研セミナー

第33回放射線災害・医科学研究 機構・拠点研究推進ミーティング

以下のとおり開催いたしますので、ご参加くださいますよう、ご案内いたします。

開催日時：2025年6月24日（火）17時30分～

開催方法：オンライン

接続先：Zoom(ミーティング)ID：890 6191 5257

Zoom URL：

<https://us02web.zoom.us/j/89061915257?pwd=Uk93L2JWWDJ3dnFkYmkvSjFGN21DZz09>

Zoom パスワード：538773（上記 URL をクリックして参加する場合は入力不要です）

タイトル：Contribution of the genetic variants and radiation dose to the risk of thyroid cancer

発表者：長崎大学原爆後障害医療研究所放射線分子疫学研究分野 准教授 Saenko Vladimir 先生

Environmental and genetic factors are thought to contribute to the risk of thyroid cancer. In a group of thyroid cancer patients and healthy subjects exposed to radioiodine after the Chernobyl accident, we investigated the impacts of genetic variants that had been associated with sporadic thyroid cancer on the genome-wide scale, radiation dose to the thyroid and of their interaction on cancer risk. In contrast to non-exposed series, some genetic variants did not demonstrate statistically significant association signal in the radiation-exposed group, while the effects of those that did were nearly independent from radiation dose. Only one variant interacted with the dose. The results suggest the absence of radiation risk augmentation by the strongest thyroid cancer-conferring genetic variants.

タイトル：ラマン顕微鏡とアマテラス顕微鏡を放射線暴露による生物学的影響評価に使用してみる

発表者：広島大学原爆放射線医科学研究所幹細胞機能学研究分野 助教 藤田 英明先生

放射線暴露による生物学的影響は、様々な方法で調べることができる。しかし、生化学的な方法は時間や手間がかかることも多く、多量の検体を短時間で調べるという目的には向いていない。我々は、安価で測定時間も短い傾向がある、光学的手法による放射線暴露影響評価法の開発を目指している。この発表では、細胞からのラマンスペクトルを利用した方法と、トランススケールイメージング装置 AMATERAS を利用した方法を紹介する。ラマンスペクトルを利用した方法は、固定や染色といった操作が不要であり、生細胞の観察もできるという利点がある。一方、AMATERAS 顕微鏡は一度の観察で 10 万～100 万の細胞を観察できることから、低線量暴露による影響調査に向いているのではないかと考えている。AMATERAS 顕微鏡は固定細胞だけでなく、生細胞にも利用できますので、ご興味のある方はご連絡いただければ幸いです。

連絡先：広島大学霞地区運営支援部総務グループ（原医研主担当） 082-257-5802（内線 5802）